



存義評

十五点

わの半事くハあやとれ 嘉  
同くハ利てあ卿へゆく  
かく乃きよきる有馬山  
とくのうへりお國の相をも

有佐評

十五点

醉ねひあり御守り 待  
七つとふつの首へり 携雲

平介評

十十五点

固本丹今ふまゆひのゑえ  
温石もあくわくとぬ彦のゑ  
新草の産毛と撫くせと報し  
き前作の酔トノ體る始

米仲評

十五点

温石アリ淨湯裡和ヒ引裂イテ  
うさ内ニの事のうされや獨ふ眉  
皺トノ筋ヘモクサリを吟よ  
游々行ひて女隠一呻

猪亟評

十五点

なりの頑扇の骨れ難よも  
酒呑りをも一月の暮に仰ぐ

樓川評

十五点

下を繋自らも否のを守る  
富をへぐる仕はばうと寒枕  
宿のはととすれ正同之

賈明評

十五点

肩をぬ鈴馬の心乃吹ひよ  
寝入多時ちくくとむすびさか顔  
かほりぬ聲の音の氣く  
飯の湯くおとくくらむやめのひ  
ふくはまも蓮ははるさま

湖十評

擔声蕉

女の流れ完り無とりれ  
戸立て斬心のナリ  
碇船行きまくらみのこも  
碑伏せハ充々ほくらの裏

あ川鄰にとあるもあらりゆ  
之粒煙もよまきもゆき  
紫の戸や猫も体の紅葉てり  
猫のよもやうりむく言れ紋

十七点

傀儡師人形とても役頭巾  
獨りうわの長の山  
萬國蕉  
年ひのそれと脚元たるの春  
すと古くくくゆれ松

首原評

十五点

松り樓ノ竹のねれ新酒麿  
萬千ハミタケモ秋の暮  
輕 盡ノ 蓋度惟子

紀逸評

十五点

利錆トロの脛も目も変て  
吉原のあくをむる十二月  
わうきトロや空と風に又月  
並のゆゆるのゆう事

木立ノあ婦長ま乃相  
きの空と 犬一矢

再賀評

十五点

晴山とぬつとタケモ苗の井  
一人じとあんのよアツル御引

珠来評

十五点

枝のあす、枝窮ひるゝ鬼庄頭  
雨園く青跡ひれ歌の松  
夏人を折り、角くたますか

しくと起るゆき自取傷風やく  
氣まくす窓まくら首と拂る

起雪評

十五点

ねうぬゆと參まれ大むら  
益うあらとやうふようと  
あーのよさら压 流月代  
雪吹湯れ角 丁彦隅

秀儂評

十五点

温かうすると差くそ絲と焼

横脇／＼草とひそみて法のゑ

萬立評

十五点

薦叢毛壳／＼もじよせ跡

呼ばうか／＼松の大聲

吉門評

十五点

日中のやどよろづのあんむり  
タチや旅のよれも貸しやし  
もとれはよろづきものら柳／＼  
母のまの体じよもうゆの秋

鈎竿て押さけども此等御

嘉廷評

十五点

風と雲とくゆとれむよの雨  
豆娘のとれもあうて渴田の春  
村一めの主酒もされ御所の状  
秋色乃ははげてもえ見船

極鶴評

十五点

父れく覺ばれまば 指帶  
起くくノ胸のうきれを良の京

書永評

十五点

松亭喰いぬるも足もやさ  
きをなす極て口と利く可化

鶴口評

十五点

鼻紙も紙へうむせこみうちにて  
ひきの絲今あくら麻も丁のうち  
その牡丹や丘のまむら

清泉評

十五点

わからへぬの外の爪と歯  
温盤全やけのまゝもぬめうぬけ

柳尾評

十五点

大百姓とよべれあひ衡  
百首よみもと算ノ麻魚く  
牧、這入とり唱りゆ僧

庭臺評

十五点

磁錦ト一通索勢の紋虎一  
ちりきの筋のゆきゆき

由林評

十五点

坂臺ヘ幌のとくノ御通者  
猿手ヤマテテモアシテ傾城

田社評

十五点

風や起りの傳馬人ど喰ふ  
夏日よハ皆食ミあれ如而る  
居酒屋の事ハ利ク百ふ鳥  
桜雲のこすアキタニあるを後  
葉乃くさげく後拂え未り

四大評

十五点

庵舎<sup>アシキ</sup>の顔より春比風  
晴天<sup>セイテン</sup>セリ竹の鴉<sup>ハヤシノウラ</sup>難  
沽<sup>ハグ</sup>居<sup>ル</sup>と老<sup>ル</sup>と言

海妙評

十五点

窓<sup>カミ</sup>火<sup>ヒ</sup>のよき如れ大車油<sup>オシガ</sup>  
馬<sup>マ</sup>の名<sup>メイ</sup>乃<sup>ノ</sup>鳴<sup>メニ</sup>雨<sup>ウ</sup>室<sup>ムロ</sup>

露牙評

十五点

所<sup>シ</sup>てハ冷<sup>ク</sup>キ<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>シ<sup>シ</sup>ねの轟<sup>クラク</sup>  
ト<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>ハ<sup>シ</sup>口<sup>ヒ</sup>の口<sup>ヒ</sup>病<sup>クモリ</sup>  
カ<sup>ケ</sup>リ<sup>ケ</sup>伊<sup>イ</sup>若<sup>カ</sup>て年<sup>カ</sup>少<sup>シ</sup>

春采評

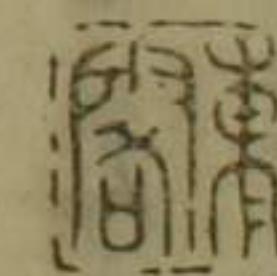
十五点

桃燈<sup>モモヒゲ</sup>の<sup>モモヒゲ</sup>火<sup>ヒ</sup>と<sup>シ</sup>入<sup>ル</sup>と<sup>シ</sup>這<sup>ル</sup>  
ら<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>反<sup>ス</sup>庚<sup>カニ</sup>參<sup>ス</sup>赤<sup>レ</sup>味<sup>ミ</sup>嘴<sup>ヒ</sup>  
も<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>火<sup>ヒ</sup>へ母<sup>モ</sup>多<sup>シ</sup>口<sup>ヒ</sup>あ似<sup>シ</sup>

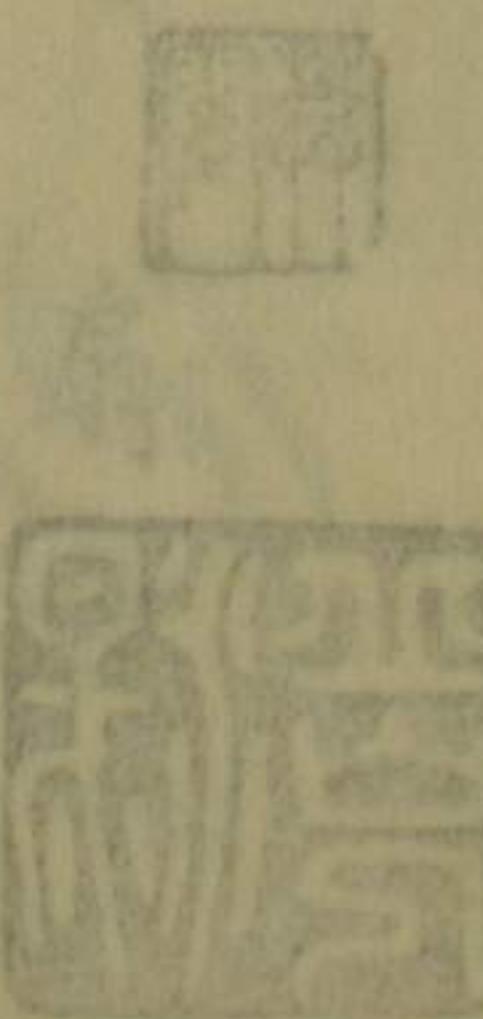
右 扇裡

持

本



卷之三



扇裡



於國中行義

妙方二子

副參厚

會完備

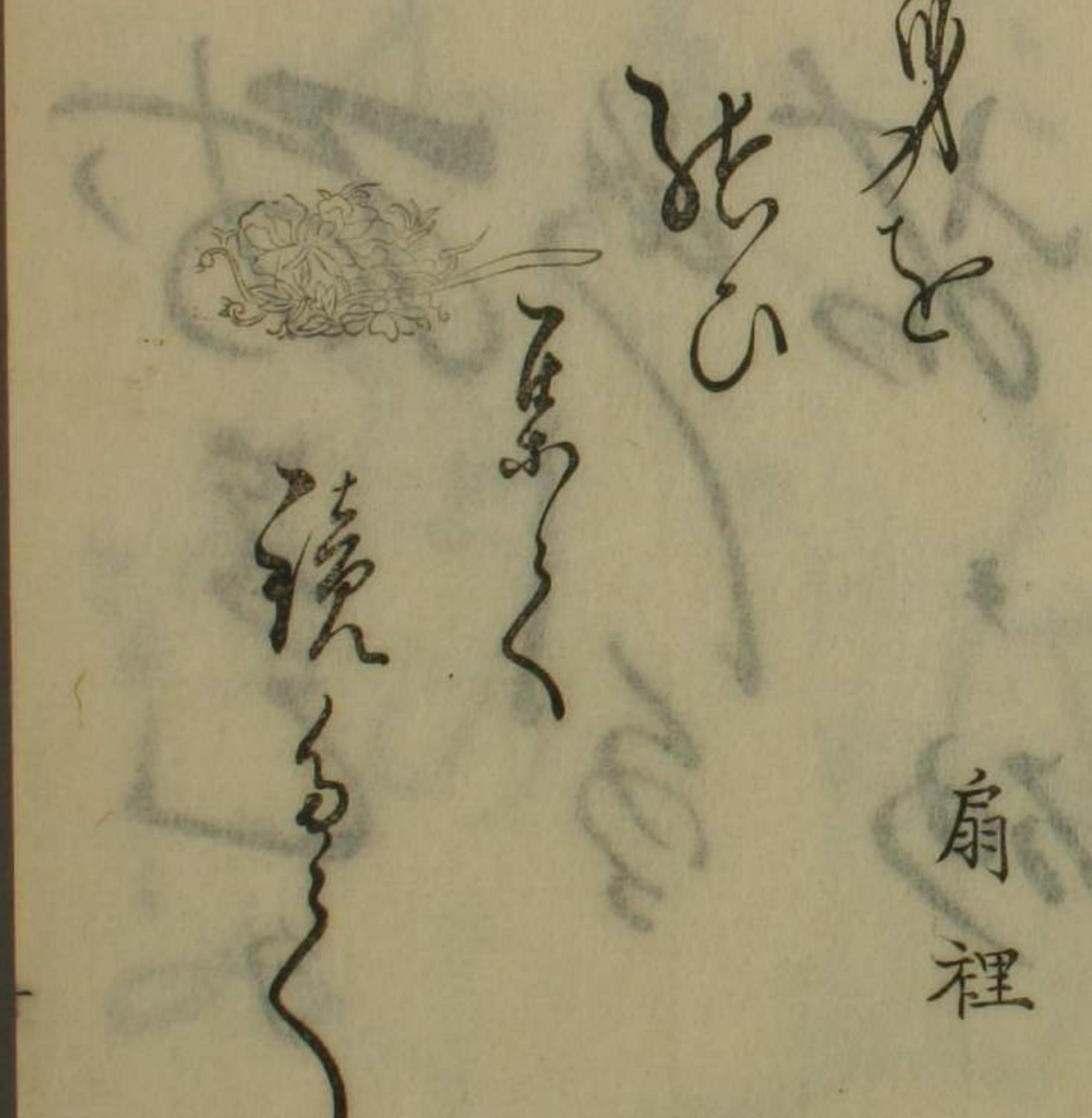
妙物

國



秀色  
綠葉

扇裡



本  
仁  
治  
之  
一  
人

ك

The image shows vertical calligraphy in black ink on aged paper. The characters '文' (top), '第一' (middle), and '好同' (bottom) are written in a bold, expressive cursive style. To the right of the characters is a small circular seal. Below the calligraphy is a horizontal landscape illustration featuring stylized trees and rocks.

This vertical section of a landscape painting depicts a misty, mountainous scene. In the foreground, there are dense, dark foliage and rocks. A small, simple building with a tiled roof is nestled among the trees on a hillside. The middle ground shows more misty peaks, and the background is filled with a light, ethereal mist. The style uses fine ink outlines and light washes of color.

第一好司

扇裡

لَهُمْ لِكَلَّا  
لَهُمْ لِكَلَّا



佛子大機のをすほひ

仲  
秀  
扇裡

日  
月  
印

三

扇裡

物語の極月

正月

よまと云ひよ、旅乃極月

扇裡

物語の極月



秋草堂

文  
之



歸

也、賞

伊豆のゆづみ

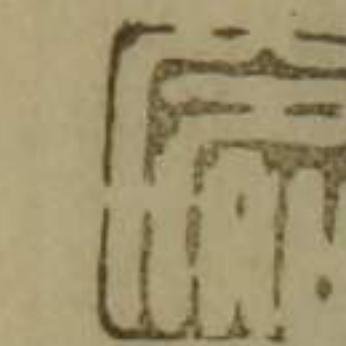
扇裡

和月のあそ夢比味する

右

官多中

賈



扇裡

春の風  
之をいゆき

堂  
繁  
細  
之

追々

五

行  
一  
宇

扇裡

手  
中  
の  
事

の  
間  
に  
か  
ら  
よ

手  
中  
の  
事

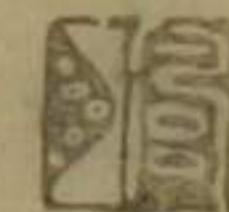
十八

青雲やあと先手来る萬葉うづ

七

百  
萬  
寶  
庫

雷、王九



今  
日  
扇裡  
長久  
天  
地  
引日

此日近无事  
三月

め方の脅てんむるお生



よし

引



天長  
地久

扇裡

炭爐の足まゝ然のふとくも



引

山伏や  
りか  
七のて

天長  
地久

扇裡

行はるにあらわのめ

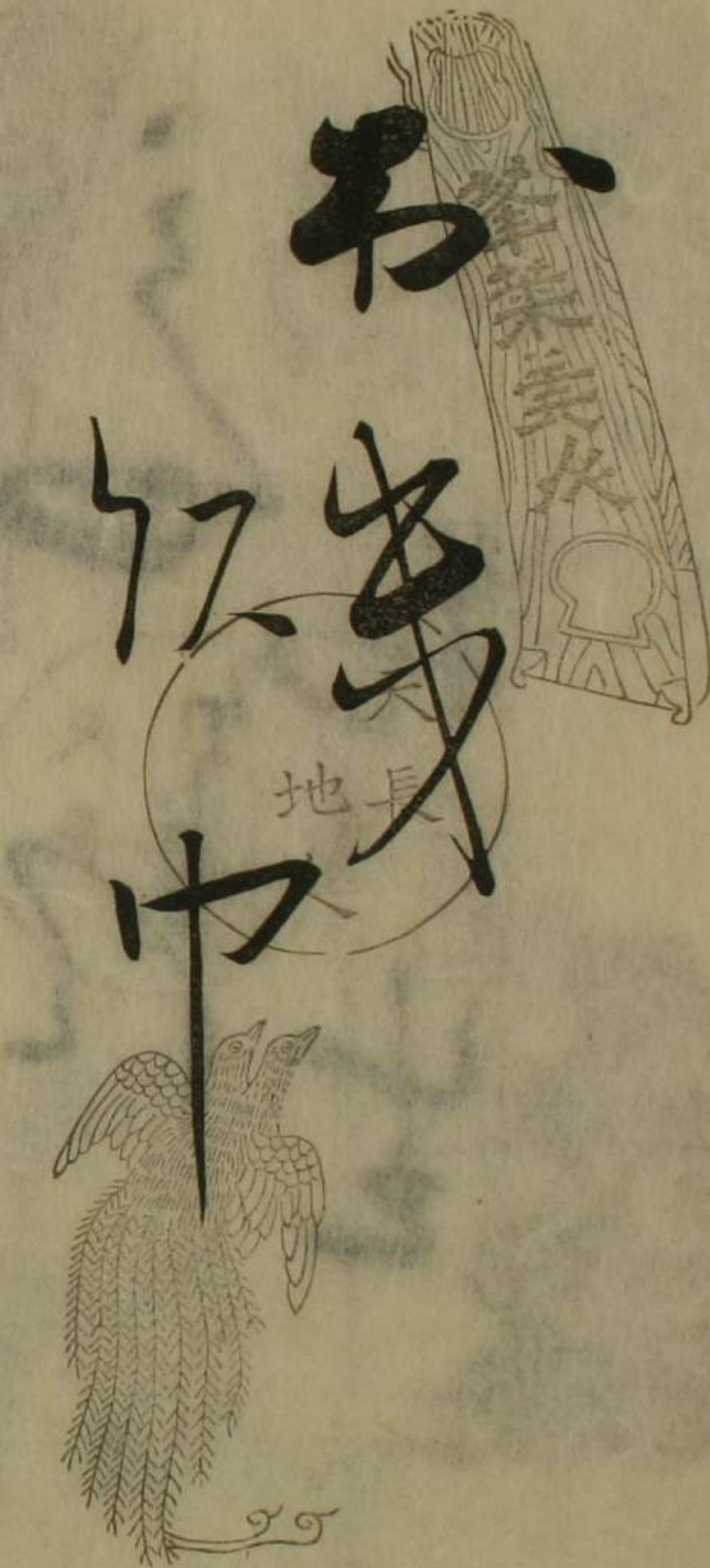
やうやう

半面

扇裡



ゑひゆ 大國様と 飢て



扇裡

うひつり

よしよ  
扇

もつみ  
非  
眞  
俗

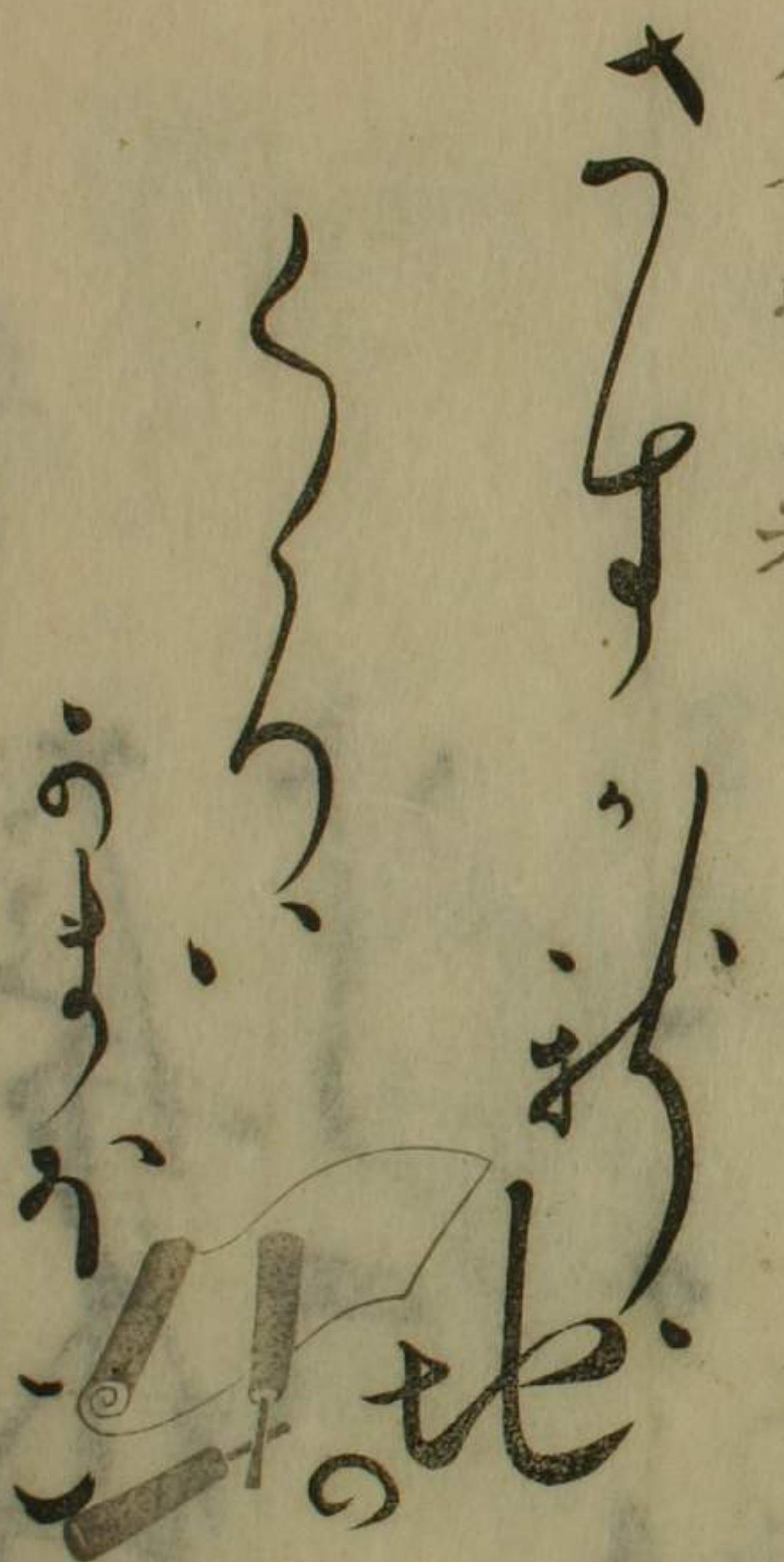
扇裡



えりへ門被立大神原

庭含明月光

扇裡



新羅

元

壬午江戸をえさみ旅居

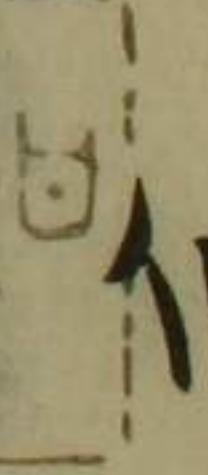
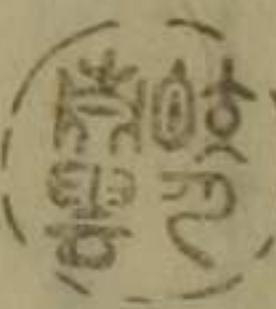


江戸を

のう節

葵風直隣

扇裡



件

一ノ

ト四  
ノ

伊豆の國  
伊豆の國  
伊豆の國

竹寺

竹

扇裡

而山畫

風集司  
朱長年

萬立

袖

圖

扇裡

傳  
扇  
裏  
之  
風  
集  
司  
朱  
長  
年

湯淨紙取あはきき草紙

サ  
卓  
行

ま  
く  
れ  
ま  
る



扇裡



ま  
る

ま  
く  
れ  
ま  
る



今月八宵脾乞申辰神变



扇裡



回風手

浪花の山

扇の印

火入道



扇裡

回風手

浪花の山

扇の印



實様やつ、免そくを小豆

圖三  
二末  
朝此  
迎

扇裡



人乙一之

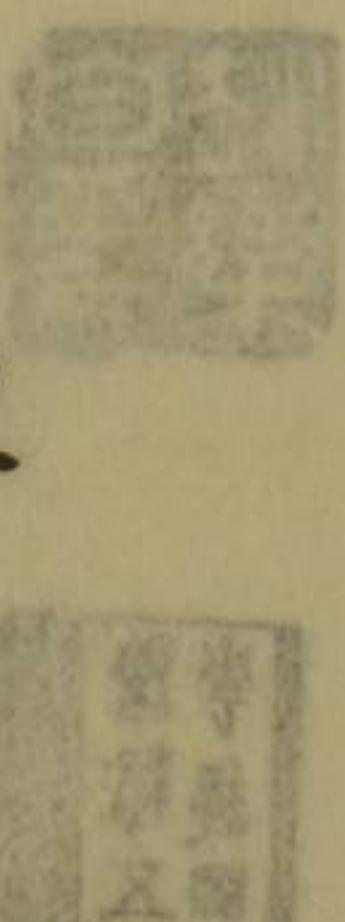
引廿四

中  
羽  
小  
扇裡



懷新美門

扇裡



玉ねりゆ



め引や

望高辻



扇裡

ひそとこりかわ  
ひるふあう

帰と



七

扇裡

金馬  
玉堂  
筆底  
有神



王一



扇裡

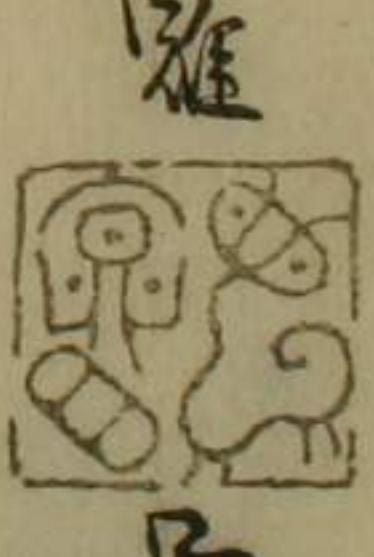
The image displays a vertical column of Chinese calligraphy in cursive script (caoshu) on aged, yellowish-brown paper. The characters are written in a fluid, dynamic style with varying line weights. To the right of the main text, there are two vertical seal impressions. The top seal is circular with a stylized character in the center, and the bottom seal is square with a more complex, multi-character design. The paper exhibits signs of age, such as foxing and slight discoloration.



四  
之

The image shows a page with a large, faint, handwritten signature at the top left. The signature appears to read "J. H. S. 1869". Below this, there is a large, dark, abstract mark that looks like a crumpled piece of paper or a stylized 'X'. The rest of the page is blank.

扇裡



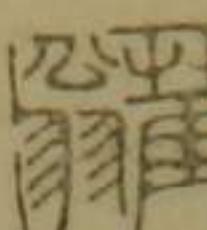
金城先生書  
西蜀王氏藏

The image shows a vertical calligraphy piece in cursive script (caoshu) on aged, yellowish-brown paper. The main text reads '萬物皆有裂痕，那正是光明的入口' (Wàn wù jiē yǒu liè hén, nà zhèng shì guāngmíng de rukòu). To the right of the main text, there is a vertical column of smaller characters: '朱良志書'. In the bottom left corner, there is a detailed illustration of a traditional Chinese knot (Chinese: 中国结), which is a type of decorative knotting used in various forms of Chinese arts and crafts.

卷之三

五  
月  
廿  
七  
日

扇  
裡



卷之三

三  
月

廿  
七

日

扇  
裡

青雲

印

沈子善

石章



步昇

扇裡

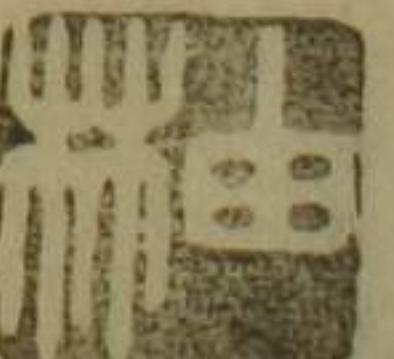
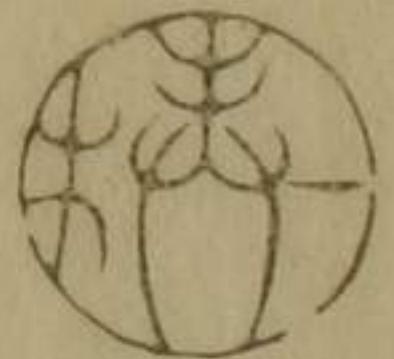
竹林

三弦

梨堂

太白山房

西窗向日



扇裡

小  
天

昌黎先生詩

年譜



廿二

江  
湖  
四  
句

漫  
錄



掌  
乃  
聲  
扇  
裡

扇  
裡

并  
南  
碑  
行  
草  
书  
扇  
裡

并  
南  
碑  
行  
草  
书  
扇  
裡

日之光

國大



扇裡



亟函曉

鳥臂より近付かへに旁紙中

其

古風



雨



南  
王  
尚

筆

扇裡



山

少



消音清便

鶴江也

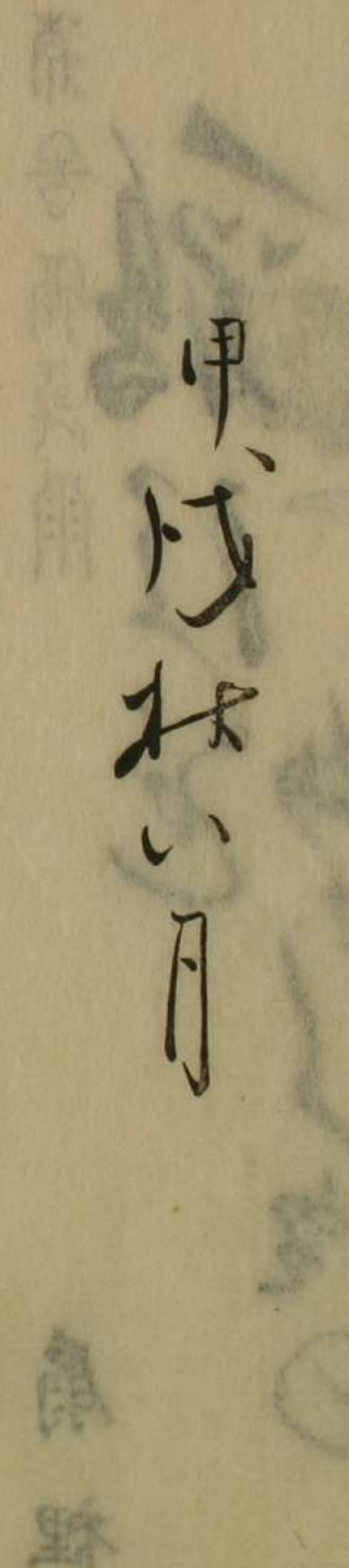
扇裡

鶴江と女をうるお床之上

下

上

甲戌年月

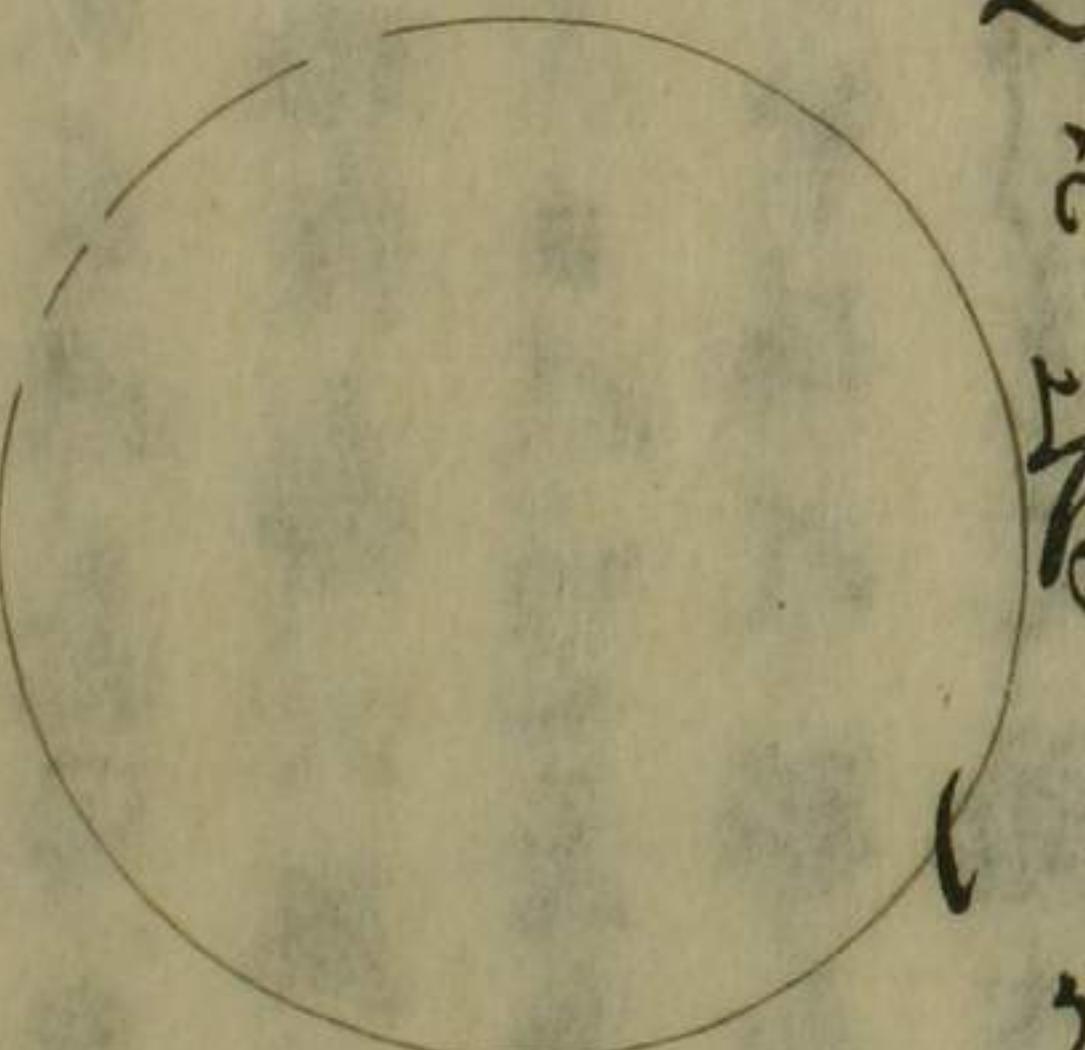


扇裡

丹  
艺  
う  
旨  
い

丹  
半  
得  
道

とくあうのうい。早苗とう



下

百員

念頭のゆ持よれ扇ふ扇裡  
新月よりおれ花の白雲 吉門  
舟の雨尔物後辭比跡引く湖十  
里砂の日れりく霞度海紀逸  
人抱も絆やほれ肠やと小珠来  
印紙傳ひまく雛もある柳尾  
残る月星乃圓へ走ひまゝ田社  
あら季と底る艸の葉乃露執毫

ニモシハ聲れ声り棹の歌  
庵の聲はて琵琶とひふ  
痛うつ持と出ゝるを運びあし  
憂寐たる枕石うどおりよ  
泣ひとと聲尔きく船曳錦  
獨うら聲ノ酒れやくろへ  
言ふれ障子へとく雪わら  
え一つあるゆうりやく紙  
藍瓶(ひづる)底とお歩り

門裡十逸來尾社門裡

食ひうるある夏の夜の君  
後れ世れ為りはす乃藏達て  
湯ともすすみ仕事ま縫  
賦傳比詩尔たむれく花る日  
孟浩然岸れま風  
毛龍山かきりハ孟孺へ  
京乃か房唐神を佛と  
白丁乃枯つわけると寂しきれ  
年ゆゑ雪中の雲

一テ夜うすふい幕布の斤底  
さすよもうりハ音ひえうる  
素頭羽風の葉も葉そり  
すすゆつとせきとす豆父  
あんきと組の切、鼻あせ  
きと鶴とまきら想  
霄くうくとくのるの霜  
本碑の香りゆふ穴が  
青山あまきよあき月比頃

はを従事くを明のむくる  
ウ  
坐リトリも爺リ命ハ心のうち  
肘ハ曲くへたシけアるセや  
如シくシのシもシくシもシ  
りあシきシ院ハ附人  
化シ者うらシきシ清シ反シ負シ軍シ  
立シ鶴シふシ纏シのシ初シを  
本シ合シ乃シ居シ陽シ終シハシ端シ近シ  
一シ咳シ止シゆシわシのシ月シ

腰シ抱シだシよシふシ仰シりシ秋シのシ風シ  
あシ山シもシほシもシくシん  
鍼シ所シのシよシ育シハシせシかシりシりシ  
鰐シ筋シりシくシ歲シ核シのシ上シ  
餌シ別シもシ大シ魚シのシ義シホシーシ  
小シ手シさシ原シもシ織シりシま  
擗シ人シれシ羅シ子シふシはシきシかシさシ  
肌シりシりシ目シとシのシまシれシ縞シ  
切シほシ指シ者シもシくシ紙シへシのシセ

衆名のもあはま家中のえ  
人うぐいこすハ旅おなみ松の更  
乃手筋れ入梅とくも  
城布れ五人能く主曾れ  
童のうらへ冷とくえ喰ふ  
きのうふ時あは中の神も坐  
廻ゆくニキ分る大竹  
されども徳てヤト<sup>淀</sup>どもね  
解毒ありわん船代有

十来社門逸尾逸裡社門來

登用をやひふ乞月ふ酒狂人  
角力生る端山筋山  
うれふ抜身比詮馬の冷<sup>ク</sup>き  
連々退<sup>ク</sup>も別の口  
生美乃日<sup>ク</sup>半日ハ髪うづら  
夏の柳乃香<sup>ク</sup>吹や  
まともを元鳥井猿とすづめ  
児<sup>ク</sup>ひそ<sup>ク</sup>波<sup>ク</sup>よて立  
牧の佐庭かく池の月

十来逸尾門社來

少い子ややうる疎礪濂の桶  
鬼費れ猪ノ捕摩ハ身よ主そ  
けひふまくね拂奇南の泥  
塙井戸と猪高ハ長ク紀念之  
花もあらう御物の雪  
兜乃骨牌をものも訓叶  
御所とす多宝塔  
内傷傳り心んむの一つを  
柳くく根くく至天の草す

門十逸社裡来尾

呼とまふ空山野情の夜鳥  
舟移波うねるるゆくよもと  
食くくともいゝ粥焚く川ふ鳥  
ゆ石の殿お猿くは連牙  
村雲ふ柏の森く角の御  
是アラムシテ程投キレ  
兵主姓代くより此病主待  
庫裏切ゆくと咲咲鶴の唄  
夏をくわ詠く枯るむ葵

社逸門十逸社裡来尾

猿  
唐人の月とつすまへうへとありて  
あそくわふくふるまの原邊  
とれ左の病うきのれ露けぬ  
川中ぬく牛ふくれる  
もんのまの薪と歌をうたはれ  
金額をぬくと朝日よ／＼  
伏母ふちくその年もちはづ  
せきとあくねへえい飯

社尾 来十 門裡 来裡

花蓋つむ裏屋くもまの門  
鶴ち鳥のむちも君こ 筆 逸

跋



三君のじつ更のまえ  
みわにさるうへ且  
今雪月花風流の  
空寂寥寥と絶えを四神  
の跡よりの景の備え

匂ふハ五櫛ノリやさ  
あくま闇もくらぬあ紙  
庭上より燎もく彼仕の  
軍種勲の族教り  
やみはるか其凜  
まじ重みなり

よろこかうへのまことや  
奉るをのえ

金城東岩代接ら

風雲柳下



